

ことでん沿線地域公共交通総合連携計画
(案)

平成 23 年 3 月

ことでん活性化協議会

<目次>

1. はじめに.....	1
2. ことであをとりまく現状.....	2
2-1. 地域現況.....	2
2-2. 道路網.....	12
2-3. ことであの概要.....	14
2-4. ことであの活性化に向けた取組み（ことであ 100 計画）.....	31
3. ことであに係るニーズ把握.....	33
3-1. 調査の概要.....	33
3-2. 集計結果概要.....	35
4. ことであの利用促進に向けた課題の整理.....	63
5. 施策導入に関する分析・検討.....	64
5-1. ハード施策の検討.....	65
5-2. ソフト施策の検討.....	88
5-3. 施策導入に関する分析・検討の総括.....	101
6. 地域公共交通総合連携計画.....	102
6-1. ことであの活性化に向けた基本方針.....	102
6-2. 連携計画の目標.....	103
6-3. 連携計画の対象地域.....	104
6-4. 連携計画の期間.....	104
6-5. 目標を達成するために行う事業及び事業主体.....	105
6-6. 目標を達成するために行う事業の全体イメージ.....	109
7. 事業の実施効果の想定.....	110
7-1. 事業の実施による需要の推計.....	111
7-2. ことであの駅を核としたまちづくりによる、地域の活性化展開の想定.....	117

参考) 事業の実施による需要推計方法

1. はじめに

高松琴平電気鉄道（以下、ことでん）は、平成13年の民事再生法適用以降、行政、地域の民間企業から支援を受けつつ、IruCaの導入等、サービス改善を重視した各種取組みの下、経営再建が進められてきましたが、なお利用者は減少傾向にあります。

さらに、沿線においては、人口の減少や少子高齢化が進み、今後も収益の拡大が見込みにくい状況にあります。

しかしながら、ことでんは、沿線住民の通勤や通学、買い物、通院等に利用されるなど、生活に欠くことのできない、重要な地域の足としての機能を担っています。さらに、高齢化対策、子育て支援、環境、交通事故や渋滞等の諸問題を解消していくために、その重要性は、今後、さらに高まっていくものと考えられます。

このように、ことでんにおいては、厳しい情勢があるなか、その維持・活性化を精力的に図ることが重要であり、交通事業者の経営努力はもとより、行政や企業、住民等が連携して支えていくことが重要となっています。そのためには、ことでんの利用者数の増加に向けて、どのような施策に取り組むべきかを明確化したうえで、関係主体間で共有化することが不可欠となります。

したがって、ことでん活性化協議会を設置するとともに、活性化に向けた基本的な方針や取り組みを示した「ことでん沿線地域公共交通総合連携計画」を策定し、交通事業者、行政（香川県、沿線自治体）、地域住民等の沿線地域の関係者が連携して、ことでんの軸・結節点の強化を図ることにより、ことでんを中心とする利便性の高い公共交通のネットワークを形成するとともに、県民等が積極的にことでんの利用するような意識を醸成していくものとします。